



公園で、団地でつくろう！

## 落葉堆肥・腐葉土づくり

### なんでも回収ネット方式

省力的な腐葉土づくりの方法を研究し、あみだしました！

ー埼玉県志木市の団地でー

切り返しがラクなので、ぜひ、おすすめ！

志木市ニュータウンには、特に木が多く、秋には落葉がたくさん落ちます。そのほとんどは、可燃ごみに出されていました。

約3300世帯の団地は8街区に分かれて、それぞれに管理組合がありますが、いくつかの管理組合で、腐葉土づくりにとりくみ、できた腐葉土を植栽に施しています。

中央式番街の管理組合では、6年前に木枠を設置し、腐葉土作りをスタートしましたが、臭いの問題解決のため米ヌカの使用をやめ、代わりに完熟堆肥を使うこととし、また、高齢になっても作業がしやすい方法「なんでも回収ネット方式」を考え出しました。



↑ごみ集積所の隣の木立の中に木枠がある

作業のとき、前は一段ずつはずせるようになっている



落葉の季節になったら落葉はネット袋(なんでも回収ネット:ホームセンターで約300円)に入れて保管しておきます。保管場所は、目に付かない団地の内部の木立ちの中などがよい。



木枠(囲い)の設置場所を平らにしておきます。傾斜があると水が1方向のみに流れるので。底にコンクリートは敷きません。



底の土の上に通気のためにブロックをスノコ状に15センチ前後スキマを開けて、敷いて置きます。底の部分の水はけと通気のため。

木枠は作業しやすいよう、前が板一枚ずつはずせるように作成します。(5段)



12月中旬積み込みの日に、落葉の入ったネット袋に発酵促進剤(タネ土)となる堆肥を混ぜます。

志木市のこの団地では、(株)大村商事の「土がよくなる堆肥」(剪定枝チップと学校給食残菜の堆肥)を使っています。サラサラで臭いがなく、バクテリアはいっぱい詰まっているので、気温が上がれば発酵が進み順調に堆肥化できます。

袋に入った落葉に、堆肥 1リットルから 2リットルを入れ、軍手かゴム手袋をして、両手でガサガサと混ぜ込みます。口ひもは解きやすさを考えて、結んでおきます。そして、水をかけながら積み込みます。ときどき踏みつけます。木枠いっぱいになったら、一番上にビニールシートをかぶせ、風で飛ばないように石やレンガで押さえておきます。

囲いに入りきれなかったネット袋は林の中に保管しておきます。囲いに積み込んだ落葉ネットは一ヶ月すると、へこんできます。上のスペースが空いてきますので、さらに、落葉を同じようにして積み込みます。ここでは、木枠にこの「なんでも回収ネット袋」に70袋積み込みます。



外気温が上がる 4 月下旬までそのまましておきます。

4月下旬に第1回の切り返しを行います。木枠から袋ごと全部出して軽くゆすり、ひっくりかえして再度積み込みます。水をかけます。ネット袋に入っているので作業がラク。

10月末までに5～6回切り返しをします。6月になると、袋の中に手を入れると発酵熱が感じられます。



これで、11月上旬には黒っぽい熟成した腐葉土ができます。好気性微生物による発酵・分解が順調にすすみ、カサはすっかり減ります。11月下旬までに団地内の植栽(灌木周り)の土にすき込み、木枠をカラにし、内側を乾燥させ、この時にしか出来ない防腐塗装を施し、新しい落葉の積み込みとなります。



木が多いこの街区では、これでも落葉すべては、利用しきれません。

本来、落葉は、落ちた木の下で、自然に分解されて土の養分になるはずのものです。

そこで、街区の一部で、木立の中の目立たない所に落ち葉を掃き寄せて盛り、風で飛ばないように、緑のネットで押さえ、さらに、植木鉢やプランターで不用になった土を集めて押さえにし、土に戻しています。土になるまでに2年はかかります。

この「鉢の土捨て場」は、街区の中のごみ集積所のそばに8箇所あります。



これらで、相当量の落葉を焼却させずに、団地の土を豊かにするために、活かしています。

ネット袋は、何回もくり返し使えるので、100袋以上のごみのポリ袋の削減もできています。

尚、木枠は、通気があり、好気性発酵させるのに向いていますが、長期間の湿気や蟻に食われて傷んでいきますので、対策を施しています。6年目となる今年は傷んでいない木材は残し、下方の傷んだ木材は新しいものに取替え、建て直しました。

《平成 20 年 12 月 作成》

\* くわしくは、埼玉エコ・リサイクル連絡会 資源循環委員会にお問い合わせください。